

「 答えは、どこに？ 」

須永 智

筆者が群馬県の仕事で尾瀬の至仏山登山道調査を担当した際、見事なユキワリソウ（桜草の仲間）群落に出会ったことがあります。ところが、その群落は登山道脇の崩壊斜面と健全植生地（植物の自然状態）との境界にありました。「このままでは登山道崩壊に巻き込まれてユキワリソウ群落は、なくなってしまう」と感じ、周辺の生育状態を調べました。

しかし、健全植生地の中では、チシマザサや丈の高い植物が隙間なく生育していて、ユキワリソウの育つ空間はありません。ユキワリソウは他の植物との競争を避けるように、健全植生地の最も脇の崩壊地に接した隙間空間のある日当たりの良い、しかも崩壊からも免れることが可能な微妙な環境に生育していたのです。ユキワリソウに限らず植物は、日なた・日陰・安定地・崩壊地などの多様な環境にそれぞれうまく適応して互いに生き残ってきました。この事実は、子どもの学校生活での居場所、さらには人生の目標にも通じるものがあるように感じます。大人目線での正解が、果たして本当の意味で個々の子供に合っているのか？「答えは、どこに？」それは「子どもの中に・・・。」